

根室市議会

5月緊急議会開かれる

根室市議会は5月27日（金）、緊急議会を開きました。日本共産党の橋本竜一議員が質疑を行いました。提案された議案はすべて全会一致で可決されました。

今回の緊急議会の議案は、市職員の給与改定に

関わる条例、市議会議員の報酬改定に関わる条例のほか、じん芥焼却場整備工事請負契約の締結、除雪トラックと高規格救急車購入の議案、各会計の補正予算が提案されました。

橋本議員の質疑



橋本議員は、「一般職の職員の給与に関する法律等の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例」について質疑しまし

た。今回の条例改正は、2021年の人事院の給与勧告に基づき、国家公務員の給与に関する法律が4月13日に「改正」されたことに伴い、根室市においても所要の「改正」が必要のため提出されたものです。

具体的には、期末手当支給月数の改定で、①民間の支給割合が国家公務員の平均支給月数を下回っていることから、民間に見合うよう、支給月数を0・15月分引き下げ（4・45月↓4・30月）②引き下げ分は、期末手当に配分（今年度以降は、6月と12月にそれぞれ0・075月分を配分）③昨年度の引き下げに相当する額については、今年の6月期末手当から減額という内容です。

質疑の中で橋本議員は、年度をまたいで給与を引き下げることに疑問を呈しました。特別職や議員は待遇が変わらないので問題ありませんが、職員は違います。前年度で退職された職員の方には、当然適用されませんが、再任用職員には適用されます。

橋本議員は、「退職された方が適用外ならば、現職の方の昨年度分についても適用すべきではない」と指摘。さらに、「市職員も今の物価高の中で生活は大変。今回の改定は賃上げの流れに逆行するもの。市職員の処遇のあり方について、（市長会などを通して）しっかりと声をあげてほしい」と述べました。なお、条例については、職員組合との合意を尊重し、賛成しました。

このほか、補正予算について、会派「市民クラブ」の本田俊治議員が質疑を行いました。

畠山和也「かけある記」

2022年5月30日

国民を泣かす政治を変えたい

元衆議院議員 畠山和也



「就職氷河期にリーマンショック。就職したのに給料が上がらない日本に、希望など見えませんでした」。語るつどいに参加された40代の方は、続けて「労働組合の集まりに行っても、私のような労働者の姿が見られませんでした。みんな声を出せないのです」と話されました。若い世代は、きっと似た思いがあるはず

「正直に言っても、水田活用交付金の見直しは困っています」と、ある農協での対話。畑や牧草地に転換したのに、また水田へ戻すなど難しい。耕作放棄が増えるとの心配も出ています。食料自給率を高めることこそ必要なのに、農家の生産意欲を奪う政治でいいのかと腹立たしくなります。

ある町で、足を止めて街頭演説を聞いてくれた方は90歳。私を激励した後に「ところで仕事はないかい」と衝撃の一言。見た目もお身体も元気そうでしたが、この年齢で稼ぐ場を求めているとは。年金削減の罪深さを痛感しました。岸田首相の「聞く力」とは、いったいなんだったのか。

首相はバイデン大統領に「防衛費の増額」を約束しました。その財源は国民への増税か、社会保障の削減でまかなうのでしょうか。この間、どれだけの国民が生活苦に泣かされてきたことか。軍備拡大より外交努力を強めることで、くらしにまわす財源を増やすことになるのです。「憲法9条をいかす政治」を掲げてがんばりたい。